

2020年度
大正大学入学試験問題
国語

2020年2月1日

注意事項

- 1 受験票は机の上に置き明示すること。
- 2 監督者の指示があるまで、問題冊子は開かないこと。
- 3 この問題冊子は30ページある。全てを解答すること。
- 4 問題冊子に、印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁などがあった場合は監督者に申し出ること。
- 5 解答用紙には、解答欄以外に下記のような記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがあるので注意すること。

①氏名欄

氏名・フリガナを記入すること。

②座席番号欄

座席番号（8桁）を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

③受験科目欄

科目名欄

国語と記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。

(例) 解答番号について、**10**と表示のある問いに対して㊦と解答する場合は、次のように

解答番号**10**の解答欄の㊦にマークすること。

解答番号	解 答 欄
10	㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯

- 7 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
- 8 記入に際しては、必ずHBかBの黒鉛筆・シャープペンを使用し、マーク欄に正確にマークすること。訂正する場合は消しゴムで完全に消してから改めてマークすること。

大正大学

〔 I 〕

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(解答番号は

1

20

)

ひとつ煉瓦^{れんが}塀^{べい}の中に、三つの家がコの字型に建っていて、いずれも洋館である。どの家の外壁にも、枯れ細^{つた}った蔦^{つた}が這^はっている。建物に三方を囲まれた芝生は共通の前庭を兼ねて、大きく開いた塀の出入口に通じていた。

ひさし少年は、近くに住んでいる同じ小学校の同級生二人と、毎朝この洋館の前を通って登校する。てるよしがじゅんすけを誘い、二人でひさしを誘いに来る。ひさしは呼ばれなくても、近づいてくるじゅんすけの声でそれを知った。

洋館のある通りは、真直ぐ電車の駅に通じている。ひさしは、この洋館の前を通る時、何か昨日と違ったことはないかと、い内の様子をうかがってみるのだが、それがいつに始まった習慣なのか、本人にもはっきり自覚されているわけではない。ただ、いつの時でも、窓硝子やドアの開くことを望んでいたし、誰かが内から現れることをろ期待してもいた。

知りたいのによくは知ることの出来ないもどかしさが、洋館の人達へのひさしの関心をは強めていた。その関心は、てるよしにもあった。じゅんすけにもあった。ことに、表から向って左側の洋館が、一年あまり前から空家になったまま誰も越して来ないのが、三人の少年には不^(a)シンとも不思議とも思われるのだが、誰もそれを口にはしなかった。

電車の駅は、ひさし達が学校へ通う電車の駅である。そして又この駅は、港へ行く電車の駅でもあった。港からは、何日かおきに出^(b)セイ兵士を満載したはし^(注1)けが沖に向った。兵士達は、沖で碇泊^{ていぱく}中の輸送船に乗り移ると、やがて広い海に連れ出され、それぞれ戦場に送られて行った。土手に立つと、港の倉庫に遮られながらもこの光景はよく見えた。

空家になっている洋館に、以前住んでいたのはハドソンさんの一家だった。今、奥の正面にはクラークさん一家が、右側にはライ

ンホルトさん一家が住んでいる。クラークさんのご主人は英語を、ラインホルトさんのご主人はドイツ語を、それぞれ町の大学で教えている。

ひさしは、ハドソンさんも同じような英語の教師だったと聞いていたが、ここを出て別の町に越して行ったのか、㊦ 本国に帰ってしまったのかはよく知らない。

① 洋館の前庭は、近所に住む小学生にとつて、格好の遊び場だった。彼等は、親達から、他所の敷地や家に入って遊んではいけない、ましてや外人さんの所などもつてのIだと注意されているにもかかわらず、止められれば止められるほど、目の色、髪の色、肌の色、言葉はIIより仕種しぐさの違う人達への好奇心がつのるのを抑えることが出来ないで、煉瓦塀に近づき、身を屈め、そろりそろりと芝生に踏み込んで行く。ひさしとても例外ではなかった。

戦争はもう何年も続いているが、この外人さん達の国と直接戦いを交えているのではないという分別は子供心の支えでもあって、それが彼等を不用意にも大胆にもしていた。III 合の空地も遠くはないのに、少年達はよほどのことでもない限りそのほうへ足を向けなかった。

少年達の中には、わざと外人さんの家に向つてボールを投げ入れる者がいた。必ず起るはずのその反応こそ彼等の期待するものであり、反応の観察には度々の機会が必要だった。

越して行ったハドソンさんの奥さんは、いつでもA 高い声をあげ、ボールを握った右手を目の前で何度も振り上げるようにして、明らかに不快の表情を見せたものだった。

クラークさんの奥さんは、一度としていやな顔を見せたことがない。ひさしが見る時は大い花模様のうすいスカーフを被っている。少年達が身振り手振りでボールを取らせてくれと頼むと、B ほど穏やかな顔つきで先に立ってボールを探し、見つけると、

さて誰に渡そうかとおどけて見せる。

苦手なのはラインホルトさんの奥さんだ。三人の奥さんの中ではいちばん年長でもあった。玄関のドアが開いて、ひさしとてるよしが一緒に入ってもまだゆとりのありそうなお腹の堂々とした姿があらわれると、じゅんすけでさえ、もうボールは諦めようという気持ちになり、仲間も我先にと物陰に身をかくした。

その日、運悪く、じゅんすけの投げたボールが、クラークさんの少女の人形を直撃した。少女は口を歪め、今にも泣きだしそうな顔で、汚れのついた人形の顔とじゅんすけの顔を交互に見詰めた。小さなからだ全体で抗(c)ぎしながら、それでも一所懸命涙をこぼ怯えているのがひさしには分った。

少女の目に、ゆっくりと涙がたまるのをひさしは見た。兄弟のいないひさしは、こんな時どうすればいいのかわからず戸惑ったが、気持ちの動くままにポケットから折りたたんだハンケチを取り出した。人形の頬についた汚れをそっと払ってやろうとした拍子に、人形を放そうとしない少女の手の甲に触れたが、ふっくらとしてほの温いその手の甲に、ひさしは、和菓子(注)の求肥を指先で撫でる時のような快さを感じた。

少女は、ウウツ、ウウツと肩でしゃくりながらじっとひさしを見上げた。じゅんすけに向けた詰(d)モンの鋭さと怯おびえが消えて、頼りなさそうな、しかし慕わしそうな目になっているのを、ひさしは疑わずに納得した。

「ハドソンさんがスパイだったっていうの、知ってるか。だから本国へかえされたんだ。」

洋館の前を通り過ぎて、煙草屋の脇のポストのところまで帰って来た時、じゅんすけが、ひさしとてるよしのどちらにもなく言った。

「ほんとか。」

てるよしは、ひさし越しに、身を乗り出すようにしてじゅんすけに聞き返したが、ひさしは、ええっ？ と心の中で叫んだまま口を開かなかった。

じゅんすけが言う。

「親戚の小父さんが、絶対にしゃべるなど言っただけで教えてくれたことだから、君達もしゃべるなよ。小父さんは、憲兵隊に関係があるんだから。」

ひさしは、ハドソンさんの奥さんの立姿を、半ばなつかしく、半ば気味悪く思い返ししながら、

「スパイだなんて。ぼくにはそう言う何の証拠もないもの。」

と話の **C** が、内心は穏やかではなかった。

夕食の時、ひさしは、食卓につくや否や話をし出した。

「お父さん。ぼく、今日、ハドソンさんがスパイだったって話、友達から聞いたんだけど。」

父親は珍らしく強い語気で、

「そういうことは軽々しく口にするものではない。もしも間違っていたらどうする。その人の一生を傷つけてしまう。人には、想像はできて口にしていいことと悪いことがある。よく覚えておきなさい。」

と言った。ひさしには意外だった。

ハドソンさんのことに対するお父さんの反応はどうもおかしい。ハドソンさんがスパイだという証拠もないかわり、スパイでなかったという証拠もぼくにはない。お父さんがこんなにむきになるところを見ると、あの人はやはり怪しかったのだろうか。

何かよくないことが起りかけている。

③ ぼくには漠然としかつかめないけれども、何かよくないことが起りかけている。それだけは確かだ。あの、しょうざぶろう小父さんの話は、やはり本当なのかもしれない。

秋の初めに、ひさしの父親を訪ねてきたしょうざぶろう小父さんのお土産は、グライダーの組立セットだった。しょうざぶろう小父さんは、ひさしの父親の中学時代の友人で、以前、軍属として満洲に渡っていた。その小父さんからグライダーの組立セットをもたらったあと、別に盗み聞きしようとしたわけではなかったが、隣の部屋でつい耳にしたのは、父親と小父さんとのこんなやりとりだった。

「^(e) どうも楽カンできない状況らしい。」

「そうか。」

「避けられないぞ。」

「^Z そうか。やっぱり。」

「^Z 時間の問題だと思う。工場のほうもその積りで。」

「^Z そうか。」

小父さんの言う避けられないものが戦争なら、又別の国を新しい敵にした戦争が始まるということなのか。煙草のバットを金鵝きんしと言えとか、チェリーを桜と呼ぶようにと言われても、中身が変わるわけでもないのにと感じていたが、それも新しい戦争につながってゆくことだったのかもしれない。もしそうならば、クラークさんの家の少女は、本国に帰ってしまう。ひさしにとっての新しい戦争は、さし当ってはまず、クラークさんの少女がいなくなることを意味した。

近々、クラークさんも大学を辞めるらしい。

そういう噂をひさしも耳にするようになった。じゅんすけは今度は何も言わなかったが、ひさしが齒の治療に通っている家の待合室で、まことしやかにそれは囁かれていた。

すでにクラークさんは大学へ辞表を出したとか、クラークさんの国の役人が難題をふっかけて来ていて、それを断れば戦争になるのだとか、見て来たようなことを言いながら、その大人達も、ここだけの話だがと言いつ添えるのだった。

洋館の煙突からは、今日も煙がのぼっているが、前を通るひさしには、なぜかいつもよりも家の中がひっそりしているように思われた。枯れた蔦も、いつになく汚れて見えた。齒医者さんの家であんな話を聞かなければ、自分もこんな見方はしなかったかもしれない。寒い日も暑い日も、脇に黒い鞆を抱えて、格好のいい足運びで電車の駅に向っていたクラークさんは、ひよっとすると、自身は大学で教え続けたかったのに、そうは出来ない事情が起ったのかもしれない。

しようざぶろう小父さんが言ったのは、どうやらクラークさんの国との戦争で、ラインホルトさんの国とはすでに同盟の約束が結ばれている。でも、これとても、じゅんすけが言ったように、いつ破られるかもしれない約束なのだろう。それに又、クラークさんやラインホルトさんが、スパイでないという証拠もないのだし、とひさしは思い、そう思ったことに、何ともいやな後味があった。

噂が立ち始めてからⅣなくのことである。学校から帰ったひさしは、クラークさんの一家が急に越してしまったことを知らされた。

ハドソンさん一家の場合と同じように、クラークさん一家が別の町に越して行ったのか、それとも本国に帰ってしまったのか、ひさしにはすぐに知るてだてがないのだった。大学に行けば分るかもしれない。しかし⑤そうするまでの理由もなかった。滅多に怒らなかつたクラークさんの奥さんはどんな気持で引越荷物をまとめたのだろうか。あと何年か経って、成長したクラークさんの少女は、ぼくに人形の汚れを拭いてもらった日のことを覚えていてくれるだろうか。

ひさしは、畝の中の道を走り続けて土手の上に出た。海の上を、今日もしけが沖に向っている。親船に待たれ、親船に手繰り寄せられるようにして陸地から遠ざかってゆくはしけの遅々とした動きが、ひさしには、自分がこの頃漠然と恐れている得体のしれないものの動きそのものようにうつつた。いかにも遅々としてはいるが、それは確かな動きとしてひさしには感じられた。空が、目に見えない速度で、ゆっくりと落ちかかってくるような気がした。

(竹西寛子『兵隊宿』より)

(注1) はしけ：陸と停泊中の本船との間を行き来する小舟。

(注2) 求肥まごひ：白玉粉に砂糖や水あめを加えて練りかためた和菓子。

問一 線(a)～(e)のカタカナの部分と同じ漢字を含む語句を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

解答番号は(a) 1 ～(e) 5。

- | | |
|--|---|
| <p>(a) 不シン</p> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 5px auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">1</div> <p>Ⓐ 両国のシン善を深める</p> <p>Ⓘ 国民のシン判を受ける</p> <p>Ⓢ 車体がシン動する</p> <p>Ⓝ シン心深い人になる</p> <p>Ⓔ シン摯な態度で事に臨む</p> | <p>(b) 出セイ</p> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 5px auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">2</div> <p>Ⓐ 海外に遠セイする</p> <p>Ⓘ 辞セイの句を詠む</p> <p>Ⓢ 意見の調セイをはかる</p> <p>Ⓝ セイ況な講演会となる</p> <p>Ⓔ 禁セイ品を没収する</p> |
|--|---|

問二

空欄

い

ほ

に入る語句の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

6

- ア い ひそかに ㊦ それとなく ㊧ とにかく ㊨ ひそかに ㊩ それとなく
- イ い それとなく ㊦ とにかく ㊧ ひそかに ㊨ それとも ㊩ ひそかに
- ウ い とにかく ㊦ ひそかに ㊧ ひそかに ㊨ いっそう ㊩ それとなく
- エ い それとなく ㊦ ひそかに ㊧ ひそかに ㊨ いっそう ㊩ とにかく
- オ い ひそかに ㊦ いっそう ㊧ とにかく ㊨ それとも ㊩ それとなく

(c) 抗ギ

3

- ア 一つのギ席を争う
- イ 御祝ギを渡す
- ウ 人生の意ギを問う
- エ 言葉の遊ギにふける
- オ 戦争のギ性になる

(d) 詰モン

4

- ア 前代末モンの事件が起こる
- イ 苦モンの表情を浮かべる
- ウ 学界に波モンを投ずる
- エ モン下生を募集する
- オ 被災者を慰モンする

(e)

楽カン

5

- ア 辞任をカン告する
- イ カン大な心を持つ
- ウ 秋の風情に哀カンを感じる
- エ 諸事情をカン案する
- オ 経済カン念に欠ける

問三 空欄 A C に入る語句として適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。解答番号は A 7 C 9。

- | | |
|-----|-----|
| 7 | A |
| Ⓐ 品 | Ⓐ 音 |
| Ⓑ 甲 | Ⓑ 権 |
| Ⓒ 喚 | Ⓒ 喚 |
| Ⓓ 品 | Ⓓ 喚 |
-
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 8 | B |
| Ⓐ 目くじらを立てる | Ⓐ 拍車をかける |
| Ⓑ 尻込みする | Ⓑ 拍子抜けする |
| Ⓒ 鶺鴒 <small>うの</small> 呑みにする | Ⓒ 鶺鴒 <small>うの</small> 呑みにする |
| Ⓓ 尻込みする | Ⓓ 鶺鴒 <small>うの</small> 呑みにする |
-
- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 9 | C |
| Ⓐ 頭を抑えた | Ⓐ 腰を折った |
| Ⓑ 腹を割った | Ⓑ 膝を打った |
| Ⓒ 腹を割った | Ⓒ 踵 <small>かかと</small> を返した |
| Ⓓ 踵 <small>かかと</small> を返した | Ⓓ 膝を打った |

問四 線 X ~ Z の意味として適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。解答番号は X 10 ~ Z 12。

- | | | |
|------------------|------------------|-----------------------------------|
| 10 | X | Y |
| Ⓐ 物ごとの算段をつけること | Ⓐ 物ごとの寓意を推し量ること | Ⓐ 現実から目を背ける |
| Ⓑ 物ごとの局面を打開すること | Ⓑ 物ごとの利益を分け与えること | Ⓑ 都合の悪いことを隠す |
| Ⓒ 物ごとの道理をわかまえること | Ⓒ 物ごとの道義を分け与えること | Ⓒ 些細 <small>ささい</small> なことに腹を立てる |
| Ⓓ 物ごとの寓意を推し量ること | Ⓓ 物ごとの局面を打開すること | Ⓓ むきになる |
| Ⓔ 物ごとの利益を分け与えること | Ⓔ 物ごとの道義を分け与えること | Ⓔ 間違った意見をたしなめる |

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 12 | Z |
| Ⓐ 先の見通しがつき、近いうちにそうなること | Ⓐ 時間の問題 |
| Ⓑ 悪い予感が当たり、すでに起きてしまったこと | Ⓑ 予見した通りに、物ごとが進行していくこと |
| Ⓒ 今後何が起ころうと、必ずしなければならないこと | Ⓒ 予見した通りに、物ごとが進行していくこと |
| Ⓓ 将来の目算がたたずに、いまだに不安定であること | Ⓓ 予見した通りに、物ごとが進行していくこと |

問五

空欄

I

IV

に入る語句の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

13

ア I 外 II 程 III 頃 IV 元

イ I 程 II 外 III 頃 IV 元

ウ I 外 II 元 III 程 IV 頃

エ I 程 II 外 III 元 IV 頃

オ I 外 II 元 III 頃 IV 程

問六

線①「洋館の前庭は、近所に住む小学生にとって、格好の遊び場だった」とあるがなぜか。適切なものを次の中から一

つ選びなさい。解答番号は

14

ア 戦争中であるからこそ、敵国の不気味な存在に接近することの方が遊んでいるだけよりもずっと生産的と考えたから。

イ 戦争が続いている現在、近所に住む異国の存在と親しくなることの方が遊ぶことよりもはるかに啓蒙的と判断したから。

ウ 戦争の閉塞感の中においては、近隣の謎めいた存在と接触することの方が日頃の遊びよりもずっと挑発的に思えたから。

エ 戦時下ではあっても、すぐそばにいる未知の存在と接することの方が単なる遊びよりもずっと魅力的に感じられたから。

オ 戦争が新たにはじまる今、身近にいる神秘的な存在と交流することの方が普段の遊び以上にはるかに魅惑的に見えたから。

問七

線②「ひさしは疑わずに納得した」とあるがなぜか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は

15

ア 少女の様子から、人形を守ってあげた自分の行為が正しかったと信じられたから。

イ 少女の様子から、彼女の手に触れた自分の行動が互いの恋心をつないだと捉えたから。

ウ 少女の様子から、人形の顔の汚れを払った自分の振る舞いが理解されたと思えたから。

- ⑤ 少女の様子から、彼女の頬の涙をぬぐった自分の行いが受け入れられたと理解したから。
- ⑥ 少女の様子から、人形についた傷を直そうとした自分のやさしさが届いたと感じたから。

問八

——線③「ぼくには漠然としかつかめないけれども、何かよくないことが起りかけている」とあるがどういふことか。適切なものゝ次の中から一つ選びなさい。解答番号は **16**。

- ア 自分にはよく分からないが、ハドソンさんがスパイだったと噂したりする身近な人々の変化もまた、新たな戦争に対する不安感の高まりかもしれないということ。

イ 自分にはよく分からないが、煙草の名前を日本語で言い換えるというくだらない要請もまた、日本の戦況がますます不利になっていく暗示かもしれないということ。

ウ 自分にはよく分からないが、父親が珍らしく息子を叱責したりする日常の小さな異変もまた、戦争がこれからも続いていることへの苛立ちの表れかもしれないということ。

エ 自分にはよく分からないが、クラークさんが大学を辞めなければならなかった理不尽な状況もまた、戦局がよりいっそう厳しくなっていく余波かもしれないということ。

オ 自分にはよく分からないが、しょうぎぶろう小父さんの土産がグライダーのセットだったという些細なこともまた、軍事情色が強まってきた証拠かもしれないということ。

問九

——線④「歯医者さんの家であんな話を聞かなければ、自分もこんな見方はしなかったかもしれない」とあるがどういふことか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は **17**。

ア クラークさんが大学に辞表を出したという出まかせが広まらなければ、周りの大人たちも彼を疑うことはなかったという

こと。

① クラークさんが本国に帰ってしまうという情報を聞かなければ、少女へのほのかな思いが破られることはなかったということ。

② クラークさんが大学を辞めるといふ噂を知らなければ、洋館に対する神秘的な憧れを失ってしまうことはなかったということ。

③ クラークさんが本国のスパイだという疑いを持たなければ、自分という存在も人を信じる純粋な心を失わずにすんだといふこと。

④ クラークさんの国との戦争が始まるという事実を信じなければ、洋館の人たちに無駄な疑いを持たなくてもすんだといふこと。

問十

——線⑤「しかしそうするまでの理由もなかった」とあるがなぜか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。

解答番号は

18

。

① クラークさん一家の行き先を尋ねたとしても、大学が本当のことを教えてくれるとは思えないから。

② クラークさん一家の現状を知りたくても、職場に聞きに行くほど深い交流だったわけではないから。

③ クラークさん一家の行方が分かったとしても、秘めていた少女への恋心が報われるわけではないから。

④ クラークさん一家がどうなったかを知っても、彼がスパイかもしれない疑いは消えるわけではないから。

⑤ クラークさん一家の行き先を知ることができたとしても、彼らとの交流が戻ってくるとは思えないから。

問十一

——線⑥「ひさしには、自分がこの頃漠然と恐れている得体のしれないものの動きそのものようにうつつた」とあるが
どういうことか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は 19。

ア ひさしには兵士を戦場に運ぶためゆつくりと進むはしけの動きが、人々の心を扇動し、日本という国を侵略していく国際的な思惑に重なったということ。

イ ひさしには親船にゆつくりと手繰り寄せられていくはしけの動きが、人々の心を蝕み、平和な日常を破壊していく戦争の影のように感じられたということ。

ウ ひさしには親船に向けてゆつくりと進んでいくはしけの動きが、仲違いを誘発し、世界中の人々から平和を奪ってしまう人間の愚かさにも見えたということ。

エ ひさしには兵士を乗せてゆつくりと前進するはしけの動きが、国民感情を煽り、自分たち少年の未来をも決定してしまう戦争の重い枷のように思えたということ。

オ ひさしには陸地をゆつくりと遠ざかっていくはしけの動きが、自分たちから生活の糧を奪い、日本の文化をも破壊する海の向こうの敵のように映ったということ。

問十二

筆者は短編小説「兵隊宿」において、ノーベル文学賞を受賞した作家の名前がついた賞を受賞している。その文学賞として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 20。

ア 芥川龍之介賞

イ 泉鏡花文学賞

ウ 川端康成文学賞

エ 谷崎潤一郎賞

オ 三島由紀夫文学賞

〔Ⅱ〕

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(解答番号は

21

〜

40

)

だいぶ以前に、農学専門のある先生から興味深い話を聞いたことがある。

その先生が留学していた頃、アメリカで人間の動物観を研究するというプロジェクトがあった。そのやり方は、例えば「一番美しい動物は何か」といったような質問を並べてアンケート調査を重ね、その答えが年齢、性別、職業、宗教、民族などでどのように違うか調べるのだという。

このことを聞いて、それは面白そうだから日本でも同じような調査をしようという話になった。うまく行けば日米比較文化論になるかもしれない。というわけでさっそく試みたのだが、これがどうもうまく行かない。アメリカでなら「一番美しい動物は」ときけば、すぐ「馬」とか「ライオン」とか、何か答えが返ってくる。ところが同じ質問を日本人にすると、「さあ、何だろうな」ときはだ **A** が悪い。そこを無理に、何でも一番美しいと思うものを挙げてほしいと言うと、「そうだなあ、夕焼けの空に小鳥たちがぱあっと飛び立っているところかな」といったような答えになる。「これでは比較は無理だから、結局諦めました」とその先生は苦笑していた。

私がこの話を聞いて興味深いと思ったのは、それが動物観の差異以上に、日本人とアメリカ人の美意識の違いをよく示すものと思われたからである。

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はある明確な秩序を持ったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右相称性(註)であつたり、部分と全体との比例関係Iであつたり、あるいは基本的な幾何学形態との類縁性II

など、内容はさまざまであるが、いずれにしても **B** な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫している。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものとなる。

Ⅲ 典型的な例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が一对八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン（規準）」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりもソウチョウ(a)な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ八頭身にせよ、何かある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学に由来するところが大きい。

もっとも、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまっており残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかししばしば不完全なそれらの模刻作品を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにはかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表わすものとなるのである。

だがこのような実体物として美を捉えるという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているようには思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかということにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

例えば、「古池や蛙かき飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「水の音」が妙音だと主張しているのでもない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じるキンチョウ(b)感を孕はらんだ深い静寂の世界に芭蕉はそれまでにない新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。^③

日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙^{あけぼの}、やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて……」という文章で知られる『枕草子』冒頭の段であろう。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿をエイビ^(c)ンな感覚で捉えた、いわばモハ^(d)ン的な「状況の美」の世界である。すなわち春ならば夜明け、夏は夜、そして秋は夕暮というわけだが、その秋について、清少納言は次のように述べている。

秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁^{かり}などのつらねたるがいとちひさく見ゆるは、いとをかし……。

これはまさしく「X」というあの現代人の美意識にそのままつながる感覚と言ってよいであろう。日本人の感性は、千年の時を隔ててもなお変わらずに生き続けている。

「実体の美」は、そのもの自体が美を表わしているのだから、状況がどう変わろうと、いつでも、どこでも「美」であり得る。《ミロのヴィーナス》は、紀元前一世紀にギリシャの植民地であった地中海のある島で造られたが、二一世紀の今日、パリのルーヴル美術館に並べられていてもその美しさに変わりはない。仮に砂漠のなかにぽつんと置かれても、同じように「美」を主張するであろう。だが「状況の美」は、状況が変われば当然消えてしまう。春の曙や秋の夕暮れの美しさは、長くは続かない。状況の美に敏感に反応する日本人は、それゆえにまた、美とは万古不易のものではなく、うつろいやすいもの、はかないもの^(h)という感覚を育てて来た。うつろいやすいものであるがゆえに、いつそう貴重で、いつそう愛すべきものという感覚である。日本人が、春の花見、秋の月見などの季節ごとの美の^(e)カ^(e)ンショウを、年中行事として特に好んで今でも繰り返しているのも、そのためであろう。

実際、清少納言が的確に見抜いたように、日本人にとっての美とは、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の営みと密接に結

びついている。そのことは江戸期に広く一般大衆のあいだで好まれた各地の名所絵を見てみればよくわかる。

名所絵とは、文字通りそれぞれの土地において見るべき場所、訪れる価値のある所を描き出したものだが、単なる場所ではない。例えば、広重の晩年の名作《名所江戸百景》を見てみると、雪晴れの日本橋とか、花の飛鳥山など、季節ごとの自然と一つになった情景が描き出されている。事実この連作シリーズは、まとまったかたちとしては、春夏秋冬の四部に分類されている。しかしそのように分類したのは広重ではない。広重は、江戸のなかの見るべき場所を、特に順序立てずに、いわば思いつくままばらばらに描き出して行った。それが好評であったので、次々と続けて、百十八点まで描いたところで彼は世を去った。その後版元が、別の画家に追加分を一点と扉絵の制作を依頼し、あわせて計百二十点の「揃物」として刊行したが、そのときに内容を四季に分類したのである。⑤
⑤ ということは、当初ばらばらに描いた「名所」が、いずれも季節の風物や年中行事と結びついていたので、自ずから分類が成り立つたということである。つまり名所そのものが、江戸の町と自然との結びつきによって生まれて来たのである。

かつての名所絵がそうであったように、今日でも人々は、旅をするとその記念や土産ものとして、土地の観光絵葉書を買って求める。パリやローマに行くと、土産物屋の店先にさまざまな絵葉書が並んでいるが、そのほとんどは、⑥
⑥ ノートルダム大聖堂とか、凱旋門とか、エッフェル塔など、代表的なモニュメントをそのまま捉えたものである。だが日本の観光絵葉書を見てみると、満開の桜の下の清水寺とか、雪に覆われた金閣寺など、季節の粧いをこらしたものが圧倒的に多い。もちろん、清水寺も金閣寺も、それ自体見事な建築だが、観光写真はそこに自然の変化を組み合わせることを好むのである。それもまた、「状況の美」を愛する日本人の美意識の表われであろうか。

(高階秀爾『日本人にとって美しさとは何か』より)

(注) 相称性……主軸を中心に同じ形状であること。

問一 線(a)～(e)のカタカナの太字部分と同じ漢字を含む語句を、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

解答番号は(a) **21** ～(e) **25**。

(a) ソウチョウ

- 21**
- ㊦ トウソウ心が湧いた
 - ㊧ サンソウに出かける
 - ㊨ ドクソウ性がある
 - ㊩ ヨクソウに水を入れる
 - ㊪ セツソウがないやり方だ

(b) キンチョウ

- 22**
- ㊦ カイキン賞をもらう
 - ㊧ ズキンをかぶる
 - ㊨ キツキンの用件だ
 - ㊩ ヒキンな例を示す
 - ㊪ フツキンをきたえる

(c) エイビン

- 23**
- ㊦ 詩歌をロウエイする
 - ㊧ インエイに富んだ絵画だ
 - ㊨ 会社をケイエイする
 - ㊩ センエイ的な意見を述べる
 - ㊪ 要人をゴエイする

(d) モハン

- 24**
- ㊦ ハンリョに恵まれる
 - ㊧ ハンセンが沖に見える
 - ㊨ ハンテン模様のシャツを着る
 - ㊩ ハンランする情報を整理した
 - ㊪ ハンイを決めておぼえる

(e) カンショウ

- 25**
- ㊦ 書類にインカンを捺す
 - ㊧ 病院にキュウカンが来た
 - ㊨ 被告をショウウカンする
 - ㊩ 新国王がタイカンした
 - ㊪ 方針がテンカンされた

問二

線Ⅰ～Ⅳの意味として適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。解答番号はⅠ

26

Ⅳ

29

Ⅰ 比例関係

26

- ㉑ 一方が他方と調和し釣り合う関係
- ㉒ 一方が他方とまとまりなく分散する関係
- ㉓ 一方が増減すると他方も無作為に増減する関係
- ㉔ 一方を例に挙げて他方と比べあう関係
- ㉕ 一方が倍になると他方は半分になる関係

Ⅱ 類縁性

27

- ㉑ よく似ているが細部では異なること
- ㉒ まったく同一の形状を持っていること
- ㉓ 似たところや近しいところがあること
- ㉔ 互いに似ても似つかないこと
- ㉕ 古い概念を發展させた新しい概念であること

Ⅲ 典型的

28

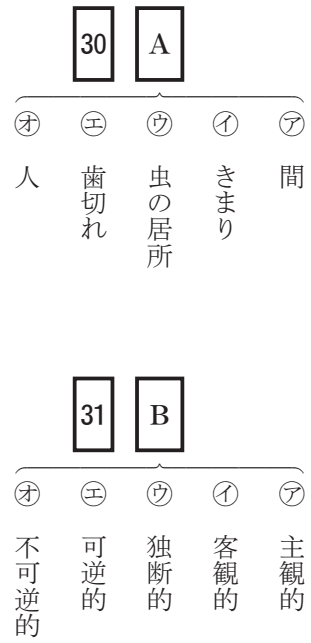
- ㉑ 有名でわかりやすいさま
- ㉒ 無名だが知るとよいさま
- ㉓ 同じ類の他の基準となるさま
- ㉔ 同じ類の中では例外的なさま
- ㉕ 同じ類の特徴をよくあらわすさま

Ⅳ 万古不易

29

- ㉑ 古いものの理解が難しいさま
- ㉒ いつまでも変わらないさま
- ㉓ ゆっくりと変わっていくさま
- ㉔ 気が付くと変わっているさま
- ㉕ 古くて理解しがたいが尊いさま

問三 空欄 A・B に入る語句として適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。解答番号は A 30・B 31。



問四 線①「変わりはない」・③「続かない」・④「はかない」の文法的な説明の組み合わせとして適切なものを、次の中から

一つ選びなさい。解答番号は 32。

- Ⓐ ① 助動詞「ない」 ③ 形容詞の一部 ④ 助動詞「ない」
- イ ① 形容詞「ない」 ③ 形容詞「ない」 ④ 形容詞の一部
- ウ ① 形容詞「ない」 ③ 助動詞「ない」 ④ 形容詞の一部
- エ ① 助動詞「ない」 ③ 形容詞「ない」 ④ 形容詞「ない」
- オ ① 形容詞の一部 ③ 助動詞「ない」 ④ 形容詞「ない」

問五 空欄 X に入る本文中の文として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 33。

- Ⓐ 夕焼けの空に小鳥たちがばあっと飛び立っているところ
- イ 人間の頭部と身長が対八の比例関係にあるとき最も美しい
- ウ 美の原理である「カノン」がそこに実現されている

- ㊦ どのような場合に美が生まれるか
- ㊧ 古い池に蛙が飛びこんだその一瞬

問六

——線①「日本人とアメリカ人の美意識の違い」とあるがどういふことか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。

解答番号は 34。

- ㊦ アメリカ人の研究はアンケート調査の結果から一つの答えを追究しようとするが、日本人の研究は想定外の回答が多い場合はいさぎよくあきらめるといふこと。
- ㊧ 美しい動物をきくと、アメリカ人は質問に対する具体的な回答を好むが、日本人は無理にきかれても「夕焼けの空」などといったはぐらかすことを好むといふこと。
- ㊨ アメリカ人は人間の動物観を研究するというプロジェクトをゼロから考え出すが、日本では面白そうだからと同じような調査を真似するにとどまるといふこと。
- ㊩ 美しい動物をきくと、アメリカ人からは「馬」とか「ライオン」とか具体的な答えが返ってくるが、日本人は「さあ、何だろうな」と具体的な回答を避けるといふこと。
- ㊪ 美しい動物をきくと、アメリカ人は「馬」や「ライオン」などの具体的な名前を挙げるが、日本人は「夕焼けの空」などの場面を含んだ回答を行うといふこと。

問七

——線②「彫刻作品そのものがまさしく「美」を表わすものとなる」とあるがどういふことか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は 35。

- ㊦ 美の規準には時代により様々なものがあるにせよ、コピーした作品も元の作品も美しいのだからどちらでもよいという判

断が成り立つということ。

① たとえ後の時代のコピーであっても、美の原理を写しとっているため、模刻作品であっても美そのものとして受けとることができるということ。

② 共通する美の原理が確認できるので、元の時期の彫刻作品が失われてしまっても美そのものであったと想像して楽しむことができるということ。

③ ローマ時代には美の規準に変化があったため、コピーした作品が美そのものであることは現代の我々の方がよく把握できているということ。

④ 現在でも八頭身の美学が話題になるように、西欧の美の規準は一貫して変化がないため、元の時代でも後の時代でも彫刻作品は美しいということ。

問八

——線③「そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけ」とあるがどういうことか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は **36**。

ア 芭蕉の一句には、古池に蛙が飛び込んでしまったために芭蕉の前には実体物がすでに存在せず、かつて体験した状況だけが表現されているということ。

イ 芭蕉の一句には、古池の美しさは蛙が飛び込む前も後もまったく変化がないが、蛙が飛び込んだ後の静かな状況のみが表現されているということ。

ウ 芭蕉の一句には、蛙が飛び込む動作や古池といった実体物それ自体への関心ではなく、古池に蛙が飛び込んだ状況だけが表現されているということ。

㊦ 芭蕉の一句には、蛙やその飛び込む音といった実体物それ自体に惑わされず、芭蕉の心中が深い静寂の世界に包まれてい
ることが表現されているということ。

㊧ 芭蕉の一句には、蛙が飛び込んだ音が美しいといった実体物への関心ではなく、芭蕉にとつての美の規準が表現されてい
るということ。

問九

——線④「砂漠のなかにぼつんと置かれても、同じように「美」を主張する」とあるがなぜか。適切なものを次の中から一
つ選びなさい。解答番号は **37**。

㊲ 《ミロのヴィーナス》はこれまで多くの人に称賛されてきたため、砂漠のような場所や状況であっても美しいから。

㊳ 《ミロのヴィーナス》は美の規準に合致した白の美しさを持つため、砂漠の砂によって美しさが引き立てられるから。

㊴ 《ミロのヴィーナス》は地中海のある島で造られたので、近辺の砂漠に里帰りさせることでより美しく見えるから。

㊵ 《ミロのヴィーナス》は美の規準に合致した美しさを持つため、砂漠のような場所や状況であっても美しいから。

㊶ 《ミロのヴィーナス》は無機質なルーヴル美術館でも美しい以上、自然の砂漠の中であれば一層美しいだろうから。

問十

——線⑤「名所そのものが、江戸の町と自然との結びつきによって生まれて来た」とあるがどういふことか。適切なものを
次の中から一つ選びなさい。解答番号は **38**。

㊲ 名所という概念は、江戸の町を描く中で生まれてきたものであり、その際に年中行事などの描写も自ずから取りこまれて
きたということ。

㊳ 季節の風物や年中行事などの自然を描く目的から名所絵が誕生しており、名所という実体的な場所だけでは誕生しない美
だったということ。

㉞ 広重の意図とは無関係に版元が自然と名所との関係を重視したように、名所は自然とあうかたちでなければ売れない傾向があったということ。

㉟ 広重が名所と共に雪晴れの日本橋などの季節ごとの自然を描いたため、その影響で名所と自然とが結びついて理解されたということ。

㊱ 広重の名所絵がそうであったように、江戸の名所は季節の風物や年中行事などと自ずから強く結びついて捉えられてきたということ。

問十一

——線⑥「そのほとんどは、ノートルダム大聖堂とか、凱旋門がいせんとか、エッフェル塔など、代表的なモニュメントをそのまま捉えたものである」とあるがなぜか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は **39**。

㉠ 西欧世界の美を表現するにあたって、季節ごとの自然といったものはかえって美の理解の妨げになってしまうから。

㉡ パリやローマの絵葉書は実体物への関心が強く、なるべく被写体に近寄って撮影しようとする傾向が認められるから。

㉢ 土地の観光絵葉書を作るにあたって、撮影者が代表的なモニュメントのみを捉えたことを尊重する姿勢があるから。

㉣ 西欧世界の美はある規準にそって表現されていることが条件なので、対象の建造物のみが捉えられていけばよいから。

㉤ パリやローマにおける「状況の美」を表現するためには、自然の景物を除いた方がふさわしいと考えられているから。

問十二

本文の内容と一致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **40**。

㉠ アメリカにおいて美しい動物を尋ねると具体的な動物名が答えとして返ってくるが、日本では動物そのものには言及せずに情景を説明する答えが返ってくる。これは、日本人の美意識が状況を重んじるためだと考えられる。

㉡ 八頭身の美学に代表されるように、アメリカを含めた西欧世界の美意識は規準を重んじるものであるが、規準は時代に

よって変化することがあるので、結果として日本のような一貫した美意識を認めることは難しい。

㊦ 芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」という一句が、古池や蛙そのものではなく蛙が飛び込んだ一瞬を捉えることで美を見いだしているように、日本人の美の捉え方には美が生まれる状況を重んじる感性があるようだ。

㊧ 清少納言の『枕草子』が鳥を描く際に秋の夕暮れに寝どころへ行く様子を賛美したように、日本人の美意識の中には実体そのものが醜い場合でも、状況の美しさを加味することで自然を味わう価値観が認められる。

㊨ 西欧世界における美は「実体」を重んじ、日本における美は「状況」を捉える傾向が認められるが、どちらの美の捉え方にもよい点が認められるので、今後は絵葉書などを作る際に双方を取り入れる意識が必要だ。

〔Ⅲ〕

次の文章は、『和泉式部日記』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。（解答番号は

41

〜

50

）

かかるほどに八月にもなりぬれば、つれづれもなぐさめむとて、石山(注1)に詣でて七日ばかりもあらむとて、詣でぬ(注2)。宮、久しうもな(a)

りぬるかなとおぼして、御文つかはすに、童、「一日ひとひまかりてさぶらひしかば、石山になむこのごろおはしますなる」と申さすれば、(b)

「さは、今日は暮れぬ。つとめてまかれ」とて御文書かせたまひて、賜はせて、石山に行きたれば、仏の御前にはあらで、ふるさと(c)

のみ恋しくて、かかる歩きも引きかへたる身の有様と思ふに、いともの悲しうて、まめやかに仏を念じたてまつるほどに、高欄の下(d)

の方に人のけはひすれば、あやしうて見下ろしたれば、この童なり。

あはれに思ひがけぬところに來たれば、「なにぞ」と問はすれば、御文さし出でたるも、つねよりもふと引き開けて見れば、「いと

心深う入りたまひにけるをなむ、などかくなむものたまはせざりけむ。ほだしまでこそおぼさざらめ、おくらかしたまふ、心憂(e)

く」とて、

「関越えて今日ぞ問ふとや人は知る思ひたえせぬ心づかひを

いつか出でさせたまふ」とあり。

⑥ 近うてだにいとおぼつかなくなしたまふに、かくわざとたづねたまへる、をかしうて、

⑦ 「あふみぢは忘れぬめりと見しものを関うち越えて問ふ人やたれ

いつかとのたまはせたるは。おぼろけに思ひたまへ入りにしかは」

(注1) 石山……滋賀県大津市の石山寺。

(注2) 宮……敦道親王。作者、和泉式部の恋人。

(注3) ほだし……仏道の妨げとなる現世での事物や人間関係。

問一

線(a)と(c)「なり」「なる」の文法的説明の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **41**。

- | | | | | | | |
|---|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| ア | (a) | 四段動詞 | (b) | 断定の助動詞 | (c) | 伝聞の助動詞 |
| イ | (a) | 伝聞の助動詞 | (b) | 四段動詞 | (c) | 断定の助動詞 |
| ウ | (a) | 四段動詞 | (b) | 伝聞の助動詞 | (c) | 断定の助動詞 |
| エ | (a) | 四段動詞 | (b) | 断定の助動詞 | (c) | 断定の助動詞 |
| オ | (a) | 断定の助動詞 | (b) | 伝聞の助動詞 | (c) | 四段動詞 |

問二

線Ⅰ～Ⅳの敬語の、敬意の対象の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **42**。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ア | Ⅰ | 宮 | Ⅱ | 宮 | Ⅲ | 作者 | Ⅳ | 作者 |
| イ | Ⅰ | 作者 | Ⅱ | 仏 | Ⅲ | 宮 | Ⅳ | 作者 |
| ウ | Ⅰ | 作者 | Ⅱ | 作者 | Ⅲ | 仏 | Ⅳ | 宮 |
| エ | Ⅰ | 宮 | Ⅱ | 仏 | Ⅲ | 作者 | Ⅳ | 作者 |
| オ | Ⅰ | 宮 | Ⅱ | 仏 | Ⅲ | 作者 | Ⅳ | 宮 |

問三 ——— 線① 「八月」の月の異名を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **43**。

- ア 水無月 ① 卯月 ウ 文月 エ 葉月 オ 長月

問四 ——— 線② 「つれづれもなぐさめむとて」の現代語訳として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **44**。

- ア 真夏の暑さからも逃れようと思って
イ 出家の願望をも満たそうと思って
ウ 退屈な気持ちをも紛らわせようと思って
エ 傷ついた失意の心をも忘れようと思って
オ 日々の生活の疲れをも癒やそうと思って

問五 ——— 線③ 「今日は暮れぬ。つとめてまかれ」の現代語訳として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **45**。

- ア 今日はまだ日も暮れていない。急いで参れ。
イ 今日は日も暮れてしまった。早朝に参れ。
ウ 今日は日も暮れてしまった。夜明けまでに参れ。
エ 今日はまだ日も暮れていない。夜中に参れ。
オ 今日は日も暮れてしまった。気をつけて参れ。

問六

——線④「かかる歩きも引きかへたる身の有様」の解釈として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **46**。

- ア このように寺に籠もって、以前とはすっかり変わってしまった作者のあり様。
- イ このように都から遠く離れて、大切なものを失ってしまった作者のあり様。
- ウ このように歩き回ってばかりで、都での務めを果たしていない作者のあり様。
- エ このように遠い寺に使いに出されて、すぐに引き返してしまった童のあり様。
- オ このように仏に祈ることもできないで、使いばかりをさせられる童のあり様。

問七

——線⑤「心憂く」とあるが、宮はなぜこのように思ったのか。適切なものを次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **47**。

- ア 自分が作者にたびたび手紙を送ったせいで、作者の寺での修行が進んでいないから。
- イ 作者が寺に籠もっていることを知り、自分は仏道修行の妨げになると思われたから。
- ウ 作者が寺で深い信仰の生活を送っているのに、自分は恋におぼれるばかりだから。
- エ 作者が自分に知らせることなく寺に籠もり、自分が置き去りにされたように思ったから。
- オ 自分が寺まで訪ねて行ったにもかかわらず、作者が先に山を降りてしまっていたから。

問八

——線⑥「近うてだにいとおぼつかなくなしたまふに」の解釈として適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は **48**。

- ア 私が側に仕えている時でさえ、宮は落ち着かない様子でいらっしやるのに。

① 私が近くにいる時でさえ、宮は私を放っておき不安にさせなざるのに。

㉓ 私が近所に住んでいる時でさえ、宮はいつも道にお迷いになるのに。

㉔ 私が側で見張っている時でさえ、宮は何かと疑わしい行動をなさるのに。

㉕ 私が近所に出かける時でさえ、宮は帰りを待ち遠しくお思いになるのに。

問九

——線⑦の和歌は、作者のどのような心情を詠んだものか。次の中から一つ選びなさい。解答番号は **49**。

㉖ 宮との思い出は近江に来たことよって捨てるはずでいたのに、愛のこもった手紙を受け取って、どうしてよいかわからず混乱している心情。

① 宮は近江の国までの道など忘れてしまったはずなのに、それでも関所を越えて訪ねてきてくれたことを、うれしく思いながらも不思議に思う心情。

㉗ 宮と恋人であったことなど忘れるつもりでいたのに、送ってくれた手紙を読んで、恋心が再燃しながらもどうしても許すことができない心情。

② 宮は私のことなど忘れようと言っていたのに、わざわざ関所を越えてやってきたので、その不誠実さに追いついてやりたいたと、思う心情。

③ 宮は私に逢うことなどすっかり忘れてしまったようだと思っていたのに、今さら手紙を送ってきたことに腹立たしくもうれしく思う心情。

問十

問題文の作者は和泉式部である。和泉式部が活躍した時期に成立した作品を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **50**。

㉘ 竹取物語

① 伊勢物語

㉙ 源氏物語

② 平家物語

③ 雨月物語

